

平成25年度事業実績

(公財) 北海道肢体不自由児者福祉連合協会

北海道における肢体不自由児者の福祉の向上に寄与することを目的に、関係機関、関係団体等の支援・協力を得て各種事業を実施しました。その主なものは次のとおりです。

1 理事会、評議員会、会長・副会長会議の開催

団体運営の適切円滑化を図るため、理事会4回、評議員会2回、そして会長・副会長会議を適宜開催しました。

2 主な事業の実施計画

(1) 療育事業

ア) 作品募集と表彰

第61回の手足の不自由な子どもを育てる運動の一環として、手足の不自由な児童・生徒の作品（作文、図画、書道、手芸工作）及び手足の不自由な友におくる友情の作品（作文・図画）を広く道内各学校から募集しました。応募学校は16校、作品数は426点でした。優秀作品は平成26年2月10日～14日の間、道庁1階道政広報コーナーに展示しました。

また、受賞者の表彰は当該学校において2月下旬から3月上旬にかけて、当協会役員等が当該学校に出向き表彰式を行いました。

イ) 絵はがき等の募金

日本肢体不自由児協会主催による、第61回「手足の不自由な子どもを育てる運動」の一環として、療育事業等に対する道民の理解と協力を求め実施し、官公庁、関係機関・団体、学校、父母の会等の協力により、1,953,586円の募金をいただきました。

ウ) 奨学金の交付

当協会に設置されている岩田・アメフト育英基金奨学生を募集し、5校13名の応募があり、11名の肢体不自由の高校生に奨学金を支給しました。

(2) レクリエーション活動の振興

肢体不自由児者とその保護者が地域の方々との触れあいを通し、社会自立と社会参加の促進などをねらいとして、当協会並びに各父母の会の共催で事業を実施しました。

実施父母の会24、延べ41回実施

参加者 肢体不自由児者542名 父母等 1552名 合計2094名

(3) 療育キャンプ等研修事業

障がい児者の地域生活における自立支援のため、肢体不自由児者とその保護者、ボランティア等を対象とした研修事業を実施しました。

ア) 肢体不自由児（者）療育キャンプ

在宅生活者が日常生活において適切な配慮・工夫する能力や社会活動等に参加する能力を身につけ、宿泊して、ゆとりのある時間の中で、医師の診察やPT等から機能訓練の機会を受けました。

特に本事業には、道立子ども総合医療・療育センター、道立旭川肢体不自由児総合療育センターをはじめ各地域療育センター、各関係機関・養護学校、諸団体、ボランティア等の協力を得て、例年より多くの方が参加しました。

実施父母の会19 参加者肢体不自由児者245名 保護者等 664名 合計 909名

イ) 学生等ボランティア・ホームヘルパーの派遣及び研修会の開催

在宅の肢体不自由児者を対象に、校外活動等を支援し、身辺自立に寄与することをねらいとして、当協会に登録（学生等）されているボランティア・ホームヘルパーを派遣しました。（旭川、室蘭地区の父母の会単位）

また、ヘルパー活動の充実と活性化を図るため、新任ヘルパー研修会を6月1日～2日、室蘭市で開催し、13名が参加しました。

(4) 地域活動事業

ア) 第13回全道肢体不自由児者研究大会の開催

札幌市で開催し、130名の父母の会会員、関係機関・団体一般の方が参加し、日頃の課題等について協議を行いました。

期 日 平成25年10月12日(土)

場 所 札幌市(かでの2・7)

参 集 父母の会会員、関係機関、諸団体等130人

イ) 全道連北海道ブロック地域指導者養成研修会の開催

地域における父母の会活動の活性化と、併せて近未来の指導者の育成を図るため、全国肢体不自由児・者父母の会連合会と共催で北海道ブロック研修会を開催し、32名参加しました。

期 日 平成25年8月24日(土)～25日(日)の2日間

場 所 道民活動振興センター かでの2・7

ウ) 第46回全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国大会(沖縄)に35名が参加しました。

期 日 平成25年10月26日(土)～27日(日)

場 所 沖縄県 那覇市

エ) 父母の会会長会議(研修会)の開催

各父母の会が抱える課題をテーマに研修会等を2回開催しました。

[第1回・平成25年5月20日(月)、第2回・平成26年2月12日(水)]

(5) 啓発事業

ア) 第61回「手足の不自由な子どもを育てる運動」を周知し浸透を図るため、各関係機関、諸団体、報道機関等へ支援と協力を要請し実施しました。実施期間は平成25年6月24日(月)から12月27日(金)。

イ) 会報の発行

当協会の事業内容及び父母の会の活動等を紹介し肢体不自由児者に対する理解を深めてもらうことをねらいとして、会報「道肢連協」を6回発行しました。

ウ) ホームページを随時更新し、情報を提供しました。

(6) 通園施設等職員の研修事業

障がいの重度・重複化に伴い、肢体不自由児通園施設職員等の障害児療育における知識及び技能の向上を図ることを目的に道立子ども総合医療・療育センターの協力を得て研修会を開催し、15名が参加しました。

期 日 平成25年11月16日～17日

場 所 北海道立子ども総合医療・療育センター

参 集 道内発達支援センター、施設等の職員を対象

(7) 悩み相談電話

障がい児者の地域生活の向上を図るため、障がい児者、家族の方々の抱える問題に電話等で対応しました。対応件数は2回でした。

3 その他

(1) 組織の拡充強化と自主財源の確保

当協会の組織の拡充強化を図るため会員及び協賛会員〔普通・賛助・特別〕の拡大に努めました。今年度の協力会員は136名でした。また、清涼飲料水〔自動販売機〕の設置拡大については現状維持、「愛の絵はがき・友情の絵はがき・愛と友情のクリアファイル」等の募金活動は200万円を割り込む結果となりました。

(2) 第13回全道肢体不自由児者研究大会は諸課題を取り上げ、解決に努め成果を上げました。